

令和8年5月27日(水)

## 茶摘み

5月1日、校内の茶畑で茶摘みが行われました。前日まで心配していた天候も晴れ、爽やかな気候の中での茶摘みとなりました。子ども達も慣れた手つきで次々に茶葉を摘み取っていき、季節を感じる活動でした。こうして今年も茶摘みができるのも、地域の皆様、保護者のご協力のお蔭です。心より感謝申し上げます。

今年、摘み取られた茶葉は例年の約2倍の35kg超となり、鹿北町の製茶工場へ持っていききました。数日後には真空パックで府本小学校へ届きました。昨年にも増して美味しいお茶になりましたよ。茶葉は発酵の度合いによって日本茶、ウーロン茶、紅茶となるそうです。日本茶は発酵度合いが浅いもので、摘んだらすぐに釜炒りをしなければなりません。ちなみに、最も発酵が進んだのが紅茶だそうです。今後、節目目の行事で府本小学校を支えてくださった皆様にもご提供できると思います。



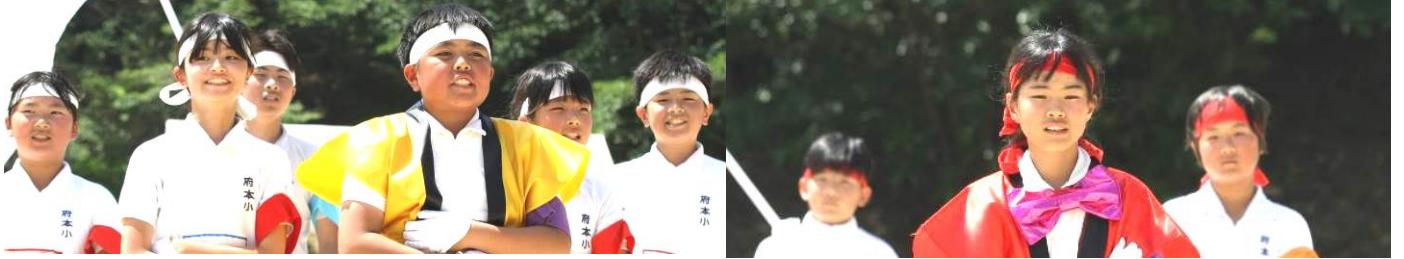
## 運動会終わるゝ次の目標へ

23日(土)は運動会でした。コロナ禍以降午前中開催となり、エキスが凝縮された感のある運動会ですが、保護者の皆様、地域の皆様のご理解とご協力のおかげで、大きなトラブル等もなく成功裏に終了しましたことを大変うれしく思いますし、心より感謝申し上げます。今後、子ども達は運動会で学んだことを振り返り、これからの生活にどのように活かしていくかなどについて話し合いをしていきます。その一助になればと、運動会当日は多くの写真を撮らせて頂きました。今回のお便りではその一部をご紹介しますと思います。

ある6年生とこんな話をしました。  
「また一つの行事が終わりましたね。卒業まであと10か月しかないよ。」  
「えっ…」

運動会にも全力で向き合い、結果を出したからこそ時間の速さを感じているのだと思います。そして、新しい目標を掲げ、仲間と協働して前進していくことでしよう。この子にとってのクラスメイトや学級は掛け替えないものであり、卒業までの時間をどのように過ごすのか楽しみます。それでは、写真をご覧ください。(職員室前に写真を掲示しています。どうぞ気軽にお越しくださいませ。ついでに校長室にも寄っていただきますい。)





## 「心のきずなを深める月間」に寄せて

来週は6月に入りますね。熊本県および熊本市では、毎年6月を「心のきずなを深める月間」と定め、いじめの未然防止や早期発見に向けた啓発活動や強化週間を集中的に実施しています。ここで確認しておきたいことがあります。「いじめ防止対策推進法」に次のような条文があります。

「第4条 児童等は、いじめを行ってはならない。」  
この条文に照らせば、いじめは違法行為になります。罰則規定はありませんが、絶対にしてはいけません。いわゆる最近のいじめは、我々が子供の頃とは少々様変わりし、単なる暴力だけではありません。言葉やSNS等によって辱めることもいじめです。

いじめが発生するのは仕方がないことだという人がいますが、それは間違いです。何故なら、いじめは人の命に係る重大なことであり、実際にそのような事件が起きているからです。そして、一人一人の心の持ち様によって、いじめはなくせるからです。

学校では、いじめとはいえなくても子供同士の小さないざごさはたくさんあります。その殆どは、相手に対して自分が優位に立ちたい、自分の思い通りにしたいというわがままから、暴力や言葉、SNS等を利用して相手を辱めるのです。そして、そのような子は人を叩き、ののしり、そのくせ自分の権利ばかり主張することが多いです。力、言葉、スマホやSNSを使って人を辱めるのはすべて暴力です。暴力でねじ伏せられ、辱められる気分を自分に当てはめて考えてみると、いじめは絶対にいけないということが分かるはずですよ。

## 役立つ名言

歴史に名を残した人の名言は、現代社会を生きる私達にも多くの示唆を与えてくれるものです。次の言葉は山本五十六の言葉です。

やってみせ、言ってみせ、聞かせて、させてみて、褒めてやらねば、人は動かじ。  
話し合い、耳を傾け、承認し、任せてやらねば、人は育たず。  
やっている、姿を感謝で見守って、信頼せねば、人は実らず。

この名言の中の「人」の部分置き換えると面白いですよ。学校現場では「児童・生徒」あるいは「教職員」と置き換えると、家庭に於きましては「我が子」…。何にでも置き換えることが出来るそうですね。ということからは、「人材育成」はこの視点に立って展開されると良さそうです。最終的には人を実らせなければなりませんので、何でもかんでも経験者が「あれしろこれしろ」ではダメです。褒めて、任せて、信頼して導くこと、そして待つことができる人間になりたいものです。

多くの「道」には、「守破離」という、成長のプロセスがありますが、人の成長もまさに「守破離」だと思えます。まずは真似て、そして基本を破り、最後に師を離れ、胸を張れる自分自身を磨くのです。そういう姿を見守ってくれる「師（教師や先輩）」と出会うのも重要です。